

知事記者会見の概要

日 時：令和5年4月12日(水) 10:02～10:39

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 新型コロナウイルスの経験を生かした今後の危機管理体制について

フリー質問

- (1) 今年のさくらんぼの生育状況について
- (2) 県議会議員選挙の結果に係る所感について
- (3) 女性の政治参画について
- (4) 県議会議員選挙の投票率等について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

最初に私事でありますけれども、先週の木曜日に入院して、金曜日に手術、そして土曜日にはリハビリ、日曜日に退院してまいりました。月曜の午後から県庁で勤務をしているところでございます。大変ご心配をおかけして申し訳ありませんでした。

それでは、まず最初にですね、「やまがた紅王」が現在どんな状況かということでありまして、これ（補足：知事が、現在の「やまがた紅王」の花の様子を写した写真フリップを提示）、園芸研究所の「やまがた紅王」でございます。ようやく白い花が開き始めまして、私も昨日見てきたんですけれども、三分咲きぐらいかなという感じであります。桜の花はもう県内各地で満開になっておりますけれども、これから県内は、果物の花が沢山咲いてですね、本当に春らん漫という感じになるシーズンであります。

「やまがた紅王」の花は、まもなく県内あちこちで満開を迎えますが、生産者の皆様のご努力でしっかりと大きな実をつけていただきたいというふうに思っております。

真っ赤なおいしい「やまがた紅王」は、6月に出荷されます。皆様、どうぞお楽しみにお待ちしております。

では次に、アランマーレの優勝について、本県に本拠地を有し、V2リーグに所属するバレーボールチームであります、プレステージ・インターナショナルアランマーレが、4月8日・9日に行われたV1リーグのヴィクトリーナ姫路との入替戦で勝利しました。目標としていたV1昇格を決めたところであります。誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

先日のV2リーグ優勝に引き続いてのV1昇格決定の報は、県民にさらなる元気と希望を与えてくれたと思います。

来シーズンは、新たなステージでありますV1リーグで、唯一の東北勢として、攻守にわたりアランマーレ山形らしい全員バレーを見せてくれることを期待しております。県民みんな、応援してまいりましょう。

それから、新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者数は、減少傾向が続いておりましたが、首都圏などでは増加の動きも見られるところであります。

本県におきましては、先週の新規感染者数を見ますと、前の週の同じ曜日を上回る曜日が多くあり、病床使用率も10%前後が続いているなど、下げ止まりの状況となっております。

次に「福祉マスクドライブ」について申し上げます。

皆様の手元にも資料あるかと思っておりますけれども、去る3月13日から、マスクの着用は個

人の判断に委ねることが基本となりました。また、5月8日からは、新型コロナが感染症法上の「5類」に移行する予定です。マスク着用の機会が以前より減っている方もいらっしゃるのではないかとこのように思います。

このため、ご家庭で使う予定がなく、余っている不織布マスクをご提供いただき、高齢者施設や障がい者施設など、マスク着用が引き続き推奨されている施設に県からお届けする「福祉マスクドライブ」の取組みを本日から実施いたします。詳細は、お配りしたチラシのとおりでございます。

県庁と各総合支庁、それから各地域振興局のロビーに専用の収集ボックスを設置し、箱単位で「未開封」の不織布マスクの引き取りをいたします。

ご提供いただきましたマスクにつきましては、福祉施設などに提供したいと考えております。配布方法につきましては、収集の状況を見ながら今後調整してまいります。

県民の皆様のご協力をぜひお願いいたします。

4月に入り、進学や就職などで人の動きが活発な時期であります。また、季節性インフルエンザも全県的に注意報レベルが継続しております。県民の皆様には、引き続き、換気の励行、ゼロ密、こまめな手洗いなどの基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

それから次は、道路についてです。

路肩の崩落により2月20日から全面通行止めを行っている大江町左沢地内の主要地方道天童大江線につきましては、このたび応急復旧工事の設計が完了し、4月8日から工事に着手しております。

ゴールデンウィーク前までに、片側1車線での通行を再開できるよう、全力で復旧工事に取り組んでまいります。具体的な開通の日時については、別途、お知らせをする予定でございます。

私からは以上でございます。

☆代表質問

記者

おはようございます。産経新聞の柏崎と申します。

先ほど知事からコロナの話が出たんですけれども、5月8日に感染症法上の位置付けというのが、「5類」に引き下げられます。あわせて、ほかのインフルエンザ並の感染症といたった扱いに変わるわけなんですけれども、コロナとえば4年前に中国で発生したとされて、横浜港に入港したクルーズ船で日本国内にどんどん広がって行って、山形県も人由来ということで、たしか米沢市で発生したのが最初だったのかなと記憶しております。以降、山形県も対応に追われました。中でも、県行政トップとして知事自身も、日々、毎日大変なご苦勞をされたんだと思います。

「5類」移行になっても、この感染症が0になるわけではなく、現在もまた、日々、今も

ですね、新たな感染者が出ている状況は変わりません。

また、突然発生するという感染症などを経験しまして、危機対応という面で「5類」に移行することもありまして、この体験を振り返りまして、県行政にどう生かしていくのか、お考えをお聞かせください。

知事

はい、ではお答え申し上げます。

今、記者さんもおっしゃいましたように、山形県で初めて新型コロナの感染者が確認されてから、3年以上が経過しました。

新型コロナの感染拡大につきましては、未知の感染症であったことやその感染力の強さなどから、未曾有の大災害との認識に立って、県民の皆様への命と生活を守ることを最優先に、医療提供体制の確保やワクチン接種などの感染防止対策、そして、コロナ禍により大きな影響を受けた地域経済の再生・回復、また雇用の維持・確保のために、全庁挙げて取り組んできたところでございます。

新型コロナの特徴というのは、次々と変異株が現れ、感染力も異なるわけです。感染拡大の波を繰り返すことであり、その時々での感染状況やウイルスの特徴を踏まえた適切な対応が大変重要であります。

こうしたことから、医療専門家の皆様のご知見や県民会議の皆様などのご意見をしっかりと伺いながら、本県の感染状況に合わせた独自の取組みなど、様々な対策を講じてまいりました。

感染拡大の波が段々と大きくなる中、医療崩壊を招くことなく、なんとかこの難局を乗り越えることができた、と言ってもまだ5月7日までまだ終わっておりませんが、乗り越えることがこれまでできてきたのは、県民の皆様・医療従事者・事業者の皆様、そして市町村と一丸となって、感染防止と地域経済回復の両立に取り組むことができたおかげだというふうに思っております。この経験は、本県にとって大きな財産になると思っております。

改めて、県民の皆様、医療従事者・事業者の皆様、そして市町村など、関係者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

今後の県政運営に当たりましては、この度の新型コロナ対策の経験も活かしながら、これまでも基本としてきた「県民視点」、「現場主義」、「対話重視」、この姿勢を引き続き大切にし、県政課題の解決に向けて、課題の現状を的確に捉え、県民の皆様への声をしっかりと聞きをした上で、必要な対策を適時的確に実施するなど、今後とも県民の皆様、関係者の皆様と一丸となって、取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

記者

そのために何か用意しておくようなことは何かございますか。用意というか、具体的に

は（事項を挙げるのは）難しいと思うのですけれども。

知事

そうですね、まだ5類に移行してございませんし、移行してからもやはり、医療提供体制とかですね、段階的に様々なことが移行するというような背景もありまして、一つひとつしっかりと取り組んでいく、そのことがやはり円滑な移行につながるというふうに思っておりますので、まずはその目の前のことをしっかりと、県民の皆様、事業者の皆様や市町村と一緒にあって取り組んでいきたいというふうに思っています。

やはり、みんなで、オール山形でしっかり取り組む、そういったことは、本県の財産であるなというふうに思っております。これからもどんな状況になろうと、そこはしっかり、基本と捉えてですね、みんなでやはり対処していくという姿勢で臨んでいきたいというふうに思っています。

記者

対策会議（山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部 本部員会議）って、よく開かれていたじゃないですか。あれは今も当面まだ解散はしないで続けられるということですか。

知事

ええ。5月7日までは、やはり、5類への移行がございますので、来週中にですね、危機対策本部員会議を開催して、さまざまな協議決定をしていく運びというふうに考えているところです。

記者

分かりました。ありがとうございました。

☆フリー質問

記者

共同通信、阪口です。おはようございます。よろしく申し上げます。

先ほどさくらんぼの開花の状況をご説明いただいたと思いますけれども、先週、先々週あたりですかね、雪が降ったりとか相当寒い日が続いたりして、一昨年の凍霜害をちょっと思わせるような気象状況があったのじゃないかなというふうに思いますけれども、今、県のほうで調査されていて把握しているようなことがありましたら教えてください。

知事

分かりました。では申し上げます。

今年の現在のさくらんぼの生育ですけれども、平年より10日程度進んでいると見ています。「佐藤錦」の開花は今週から始まり、満開期は4月15日～20日頃になると見込まれています。

これまで、3月29日と30日、そして4月2日と3日、10日、この5日間にですね、県内の主要果樹産地において最低気温が-2℃以下になる地点がみられました。このため、さくらんぼへの低温の影響調査を実施しましたところ、雌しべの枯死が確認されております。

一つには、主力品種の「佐藤錦」では凍霜害の対策をしない園地で2割から6割程度の枯死率になっておりますが、対策をした園地で2割程度となっております。

二つに言えることは、生育の進んでいる「紅秀峰」では、対策をしない園地で7割程度の枯死率になっておりますが、対策をした園地では、4割程度となっております。

三つ目には、「やまがた紅王」ですけれども、「紅秀峰」と同様に生育が進んでおりまして、「紅秀峰」と同程度の影響と考えられます。

花の時期を迎えており、受粉して実をつける作業が重要でありますので、結実の確保に向けて、4月13日にさくらんぼ結実確保に係る広報キャラバン出発式を行います。山形市黒沢というところですね。それから、4月14日に公開でさくらんぼ結実確保のための講習会、天童市成生というところで、講習会を行うなど、各地域で対策に万全を期してまいりたいと考えているところでございます。

本当に、凍霜害がこれ以後起きないようにということを切に願っておりますけど、まず、できる対策というものをですね、生産者の皆さんと一緒にやって取り組んでいきたいと思っております。

記者

気象なので、如何ともし難いところだと思うのですが、今年は、やっぱり「(やまがた)紅王」のデビューがあつての中で、対策していないところでは、かなり影響を受けているということ自体について、知事はどのように受け止めていらっしゃいますか。

知事

そうですね。一昨年大変でありましたけれども、今年が「紅王」の本格デビューの年でもありますので、さくらんぼの将来を担う、この大型新品種、これは本当に世の中にたくさんPRをして出していきたいというふうに思っているところです。

ですが、今年は、本当に開花が早くですね、桜の開花も3月31日に宣言出ましたけど、これまでで最も早かったと言われております。果樹の花もやはり同様に早く咲いておりまして、朝晩の気温と昼の気温が10度も20度も差があるというのはですね、美味しいフルーツができるという分にはいいんですけれども、霜が降りると雌しべが枯死してしまいますので、やっぱり、その対策というものをですね、これまで行ってきた何種類かの対策ありますし、これからもどういうふうにしていけば霜の害から逃れることができるかみたいな

ことは、やはり、しっかりと研究して取り組んでいかなければというふうに思っているところで、担当にもそのようなことを話をしているところです。

毎年ですね、この時期は暖かくなるのはありがたいのですが、霜の害が気になってですね、本当にハラハラしているというのが正直なところであります。今年は何とか対策をして乗り越えていただきたいなど、生産者の皆様と関係機関、県も一緒になってですね、しっかりと取り組んでいって、大きな赤い実をたくさんつけてもらいたいというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。もう1点。県議選が週末行われましたけれども、新しい県政、県議会のメンバーとなりました。知事、議会と県政、こちらの行政側ということで、どういうふうに今後向き合っていくのか伺えますでしょうか。

知事

はい。そうですね、県議選が終わりまして、新たなメンバーが決まりました。県民の皆様がしっかりとですね、それぞれの候補者について、信念や抱負ということをしつかりと検討されて投票していただいたものというふうに思っております。

それに尽きるんでありますけれども、まずもって当選された方々に、心からおめでとうございますと申し上げます。今回の選挙結果につきましては、県民の皆様が候補者の考えをよくお聞きになって判断された結果というふうに受け止めております。

執行部と県議会とは、県政にあって、車の両輪に例えられます。ですが、目指すところは山形県民の幸せ、そして山形県政の発展であります。執行部と県議会、すなわち私たちと、このたび県民の皆様が付託を受けて当選された43人の方々と一緒になって、しっかりと議論をしながら、山形県民の幸せのため、県政に全力で一緒に取り組んでいきたいというふうに思っているところです。

女性の県議が6人誕生ということで、そんなに多いとは思いませんけど、過去最高にはなったということで、一応それは良かったなというふうに思っています。人口の半分は女性であり、半分は男性でありますので、民意を反映するという点でもですね、もっともっと女性も増えていってほしいなというふうに思っているところでもあります。

記者

河北新報の奥島です。よろしく申し上げます。

今お話ありました、女性県議がまだまだ多くはないけど一応増えはした、というところなんですけど、一方で今、知事もおっしゃったように、割合としては10%ちょっと（補足：今回の本県議会議員選挙における女性当選者数は6人であり、定数（43人）に占める割合は14.0%）ということで、特に政治分野で女性の進出が進まないというところの原因をどのよ

うにお考えになっているかというところと、知事も立場は違えど同じ女性政治家として、知事の経験なども踏まえて政界がどのように変わっていくべきかとお考えになるか教えてください。

知事

すいません、1点目、もう一回お願いします。

記者

はい。政治分野で女性の進出が進まない原因をどのようにお考えなるかというところで。

知事

そうですね、やっぱり政治は男性がするもの、というようなね、そういう風潮がまだまだあるのかなと。そして、本県だけではありませんけれども、女性は家事とか育児、介護を担うというようなね、そういうやはり過去からのイメージと言いますか、そういうのが根強いところがあるのかなというふうに思っています。

ですから教育現場というところも中長期的に私は大事なことだと思うのですが、女性であろうと男性であろうと、政治家を志す人に対してみんなで協力し合うというような体制が作られる、そういう環境づくりというのかな、そういったことがやはりもっとも大事になってくるかと思えます。

何年前かに、コロナになる前でしたけれども、女性首長さんが東京で集まったことがございまして、その時に女性町長さんとかですね、そういった方々と話をしたんですけど、やはり伴侶の協力体制というのは大きかったとおっしゃっておいりました。家族の協力体制はとても大事なのかなと思っております。それがすべてではないですけど、大きな要素ではないかなというふうに思っています。

それで、これからのことですね。これからは、そうですね、少しずつ進んでいるような気がしますけれども、日本は諸外国に比べますとだいぶ遅れております。政治分野、経済分野も同様だと思いますけれども、これはやはり100を超える国々がですね、クオータ制といったことを導入しているという事実があります。やはりそういったことを最初きちんと導入して取り組まないとなかなか一気に進むということにはならないのではないかと思います。やはり、まったくそれは政治というようなところですね、女性も男性も両方の政治分野への進出といいますか、民意の反映がされるべきだというようなことで、やはりそういうところから大きく一歩踏み出していただかないと、なかなか進んでいかないのではないかなというような感想であります。

記者

わかりました。ありがとうございます。

すいません、もう1点。今回の県議選では投票率が前回から下がりました、特に都市部の山形市などでは大きく下がったということでしたが、県民の県政への関心というのが下がっているというふうにも捉えられると思うのですが、その原因をどのようにお考えになるでしょうか。

知事

はい。今般の県議会議員選挙の投票率は50.96%でありました。前回はですね、平成31年は54.32%でしたから、それと比べて3.36ポイント低下したわけです。戦後の県議会議員選挙としては最も低い投票率となりました。

これは、選挙区別で投票率が最も低かった山形市選挙区をはじめ、市部における投票率の低下が全体の投票率に大きく影響した形となっております。

本県の投票率は、今回、都道府県議会議員選挙が行われた41道府県の中では第7位になりますけれど、全国的にも投票率が低下しているところが多い中、同様の傾向にあるものと受け止めているところです。

一方で、期日前投票につきましては、全有権者の2割弱に当たる109,623人の利用につながったところです。

選挙は、有権者の皆さんが政治に参画する重要な機会であります。まさに民主主義の根幹とも言えると思いますので、今後の選挙におきましても、有権者お一人おひとりが、選挙は自分の未来を決めるものだという認識に立ってですね、そういう意識をお持ちになって、大事な大事な1票をしっかりと行使していただきたいというふうに思っているところでございます。

記者

加えて、先ほども言ったのですが、県政への関心というところはどのように見えていますか、県民の。

知事

県政への関心ですか。そうですね、県政への関心が低くなってきていると、あるいは国政と言いますか、全国的にそういうところがあるのかもしれないということは言えるのですが、年代別といった、そういう分析もちょっと必要なのかなと。あと性別でありましたり、年代別、都市部・中山間部といったいろいろな要素をクロスしてですね、その分析をしてどういうのが望ましいのか、これから対策をしていく必要があるなと思います。

18歳から投票ができるようになったわけでありまして、18、19、20歳の方々はどうだったのかとかね、いろいろやはり分析をされるのではないかなと思いますし、していただきたいと思います。

それで、選挙管理委員会でどういうふうにな、対策を立てていかれるか、県としてもど

のようなサポートができるのか、やはり政治というのは本当に県民の皆さんの生活を定める、未来をも決める大事なものでありますので、選挙権をしっかりと行使するということがやっぱりこれからもですね、しっかりそのような方向に持っていければいいなというふうに思っています。

投票率が下がったというのは大変残念に思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの白田です。

さくらんぼの霜被害について教えていただきたいのですが、数字だけ聞いていると、園地によっては6割、7割というところで、大きな被害なのかなと思うのですが、知事、県としては、現時点での被害の状況の程度、大きな被害なのか、深刻な状況なのか、その捉え方を教えてください。

知事

はい。6割とか7割とか聞きますと、私などはそのまま受け止めますので、大変だねと、ちょっと青くなってしまうところがあるんですけども、担当のほうから聞きますとですね、これから結実させる時の、受粉とかですね、そういう時にきちんと受粉なって結実が確保できれば大丈夫なんだというような声もちょっと聞かれますので、やっぱりその専門の担当の人たちが今どういう状況なのかということ、このあとですね、担当部のほうからお聞きになってほしいと思います。

私も真っ青になったんですよ。「7割？」と、「もう、じゃあ3割しか残らないのか」みたいな。でもそうでもなくて、やっぱり今からでも十分、しっかりやっければ、大丈夫と言えるかわかりませんが、まずお天気の様子を見ながらなんですけどね、5月、6月にも雹が降ったりとかいうこともありますので、まだまだ油断はできないと思っていますが、でもまだしっかりと対処できるというようなことも聞いておりますので、そういう意味で生産者の皆さんとJAとか県や市町村、一緒になってですね、しっかり対処してもらいたいなと思っているところです。

記者

ありがとうございます。

記者

山形新聞の鈴木です。よろしく申し上げます。

1点、先ほどの政界への女性進出のお話の中で、クォータ制を導入するなどしなければ一気に進まないのではないかというご見解を示されたわけですが、これは今の話の流れですと、国政だけでなく地方議会にも同じようなクォータ制が必要ではないかということでしょうか。

知事

そうですね、同じだと思います。

ただ、政府に対しては、提言は何回もしているのですが、そんなにやっぱり前向きではないのかなという感触を受けています。

だけど、やっぱり10年後を考えるとね、そのクォータ制を導入している国々というのはもっと進むわけだし、政治の場面で女性の首相が出てくるのが当たり前みたいになっていくところもありますからね。日本はなかなかそういうのが、実現していないし、都道府県知事も私と小池さん（東京都知事）だけ、女性はたった2人というところになって、もう絶滅危惧種みたいな感じで思っていますし、市町村長はゼロですからね、女性は。

でも、一応そこに挑戦するという女性も出てきましたのでね、良い方向ではあるなどは思っているのですが、ただ、やはり政治として政府でしっかりと取り組んでいただくのが大事ではないかなと私は思っています。

記者

はい、ありがとうございました。

記者

NHKの山元です。

先ほどのさくらんぼの話の、追加で質問です。

特に「紅王」についてなんですけど、霜の被害が出ているということは今後次第ということだったと思うのですが、今年の予定収量と言いますか、予想の収量は20トンだったと思うのですが、その収量についての影響というのは今の段階ではまだわからない、もしくはその影響が出る可能性があるということなのでしょうか。

知事

そこが私も心配であります。担当にもしっかり聞いてみたいと思いますし、このあと担当のほうから聞いてもらいたい、私も聞きますけれども、皆さんもお聞きになってほしいと思います。

私がハラハラドキドキするんですけど、案外担当は、なんとも言えないのかもしれませんが、摘果するくらいですから、「大丈夫」という言葉は使いませんが、「これからのやり方でなんとかなると思います」みたいなことはおっしゃるんですよね。

ただ、一昨年だか去年でしたかね、開花の頃に寒さにやられ、そのあとも低温が続いて蜂が飛ばなかったということがありましたので、それを考えると今年も受粉の頃にですね、蜂が飛ぶくらい暖かくなってくれればいいのですけども、その天気予報というのはすごく大事だなというふうに思っています。